



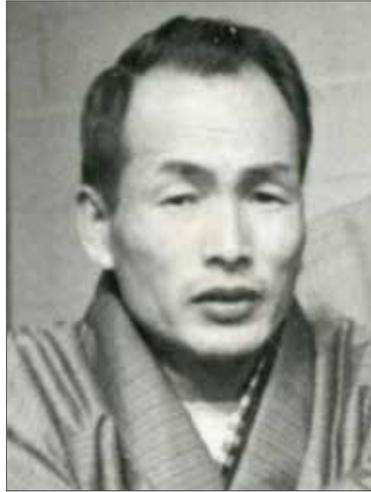
ふくはら けんじ
福原 賢治

(1926 - 2017)

気象技術官養成所 本科生
被爆時年齢：19歳

研修生として出身地の広島
の気象台で研修を受けていた。
原爆投下時は、気象台内にいたが、
右脚に大けがを負い同期の研修
生と二人で気象台の宿直室で養
生することとなった。

遺影登録：2021年7月



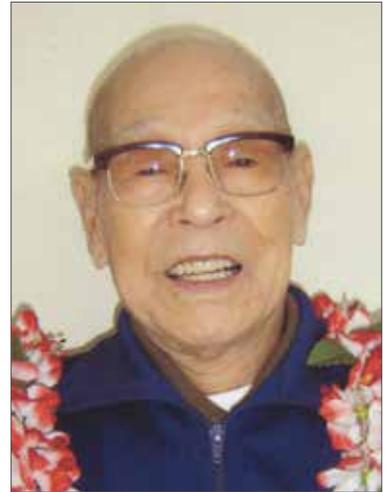
きた いさお
北 勲

(1911 - 2001)

広島地方気象台 技術主任
被爆時年齢：34歳

夜勤開けに無線室で観測デー
タを受信している際に被爆。直
後から非常事態に対応しつつも
気象観測だけは怠らなかった。
戦後は若手台員と共に、原爆
と枕崎台風の被害調査に注力
した。

遺影登録：2022年3月



しらい そうきち
白井 宗吉

(1916 - 2010)

広島地方気象台 技手
被爆時年齢：29歳

原爆投下の日には休暇日で、
自宅の2階で被爆。気が付くと
床が抜けていて、親子共々1階
の床下に落下していた。枕崎
台風来襲の際は、台長以下主
要メンバー不在の中、夜を徹
して気象観測を遂行した。

遺影登録：2022年5月



やまよし えいこ
山吉 英子 (旧姓)

(1925 - 2016)

広島地方気象台 事務員
被爆時年齢：20歳

広島地方気象台内で勤務中に
被爆。職員のほとんどが負傷
した中、唯一無傷だった。
重傷を負った二人の研修生を
はじめ、負傷者の看護に努
めた。

遺影登録：2022年9月



くにやす せいこう
國保 政行

(1926 - 2006)

出征中
被爆時年齢：19歳

出征中だったため、原爆投下
後に救護のため入市し被爆した。
終戦後は、9月から広島管区
気象台に復帰した。

遺影登録：2022年11月



にしだ むねたか
西田 宗隆

(1925 - 1999)

気象技術官養成所 本科生
被爆時年齢：19歳

出勤中、満員電車の中で被爆
(爆心地から約700m)するも、
奇跡的に無傷だった。黒い雨
に遭った経験を活かし、原爆
被害の聞き取り調査に力を注
いだ。

遺影登録：2022年12月

追悼平和祈念館に既に登録されている元広島地方気象台関係者たちの遺影 <別紙>

※勤務先、役職は、1945年8月6日時点のものです。



ふくはら のぶこ

福原 信子

(1922? - 1945)

広島県地方木材統制 (株)

被爆時年齢：23 歳

福原賢治の姉。1945年6月下旬、研修生である弟の生活を支えるため、広島市元柳町（爆心地から約 0.5 km）に東京より移り住んでいた。

原爆投下後は、行方不明となった。

遺影登録：2001年10月



やまね まさのぶ

山根 正演

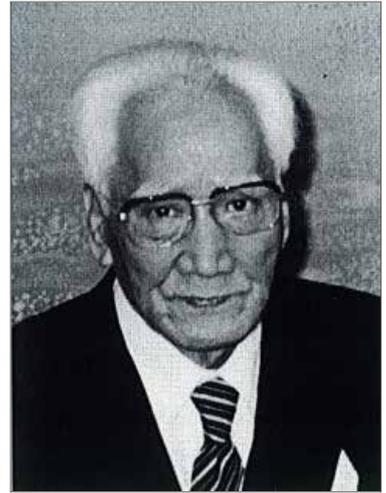
(1916 - 1989)

広島地方気象台 技手

被爆時年齢：28 歳

8月6日夕刻、観測データを中央気象台へ送るため市の中心部へ入り、道中、倒れていた女性から娘への遺言を頼まれた。戦後も心当たりを捜し続けたが、手がかりは掴めなかった。被爆直後から、深刻な原爆症を発症し、故郷松江で療養した。

遺影登録：2002年7月



ふるいち としのり

古市 敏則

(1921 - 2004)

広島地方気象台 技手

被爆時年齢：24 歳

原爆投下時は、気象台内で研修生へ指導をしていた。8月6日夕刻、山根技手らを伴って市の中心部へ入り、深刻な原爆症に悩まされた。終戦直後、帰郷を命ぜられ、決死の思いで故郷の高松までたどり着いた。

遺影登録：2004年6月